



## 産学官のスクラムで感謝の気持ちをお届け



西川福井県知事と握手を交わす町長

### 1年間の功績を講えて



感謝状を受け取る高校生と担当教諭

〔感謝状贈呈者〕（敬称略）

小岐須 あすか、志水 美緒、鈴木 奈々、  
高井 悠理菜、鶴見 宥依、寺田 有利、  
中村 香織、野呂瀬 彩乃、平光 瞬、  
若村 咲弥、足立 茜（担当教諭）

〔選挙管理委員会から感謝状贈呈〕

岐阜工業高等学校 デザイン工学科  
ビジュアルデザインコース

### ふるさと納税未来大賞 受賞

このたび、笠松町のふるさと納税の取り組みが「ふるさと納税未来大賞」に輝きました。

この賞は、ふるさと納税された方と自治体を結ぶ積極的な取り組みで模範となる自治体に贈られる賞で、全国5団体の事例の中に笠松町が選考されました。

笠松町は、平成20年から「ふるさと納税」に取り組んできました。昨年、岐阜県立岐阜工業高等学校デザイン工学科3年生の10人が、お礼の品に共通するマークを考案され、「寄付者の方に、私たちからの感謝の想いも一緒に届けてほしい」と訴えました。現在、すべてのお礼の品に、考案されたマークのシールが貼られています。このような連携が、このたびの受賞につながりました。

2月11日、東京都の品川インターシティホールで開催された授賞式では、広江町長が「未来大賞」を受け取り、高校生が事例発表をしました。

「未来大賞」受賞に先立ち、この高校生10人の1年間の取り組みを報告する発表会が、2月8日に役場で行われ、約150の方が集まりました。

前期には笠松町をPRするポスターを制作し、多くの方に見ていただくため「笠松町PRポスター総選挙」を町内外で開催し、また後期には町内事業所のポスター制作やコラボ商品開発も手がけ、1年間笠松町のPRに取り組まれました。

前期の総選挙では、町選挙管理委員会の実際の投票箱を使って投票を行い、3,968票を集め、開票作業は後輩の2年生が行いました。開票の結果、作品には順位がつけられましたが、実際にポスターを見られた方から、全部素晴らしいとの声を多数いただき、町ではすべての作品を「笠松町“感幸”PRポスター」に採用することとしました。

また、このような産学官の連携を強固にした生徒と担当教諭へ町から感謝状を、また町選挙管理委員会からも感謝状を贈呈しました。

## 寝たきりのお年寄りの方を訪問

### 友愛訪問

2月3日、町老人クラブ連合会女性部役員が寝たきりの会員の家庭を訪問しました。「これからもお元気でお過ごしください」と、お見舞い品を手渡し、また介護をされているご家族の日ごろの労もねぎらいました。

